

(2) 担い手への農地集積・集約化 事例⑭ (米沢市上新田下前地区)

モデル地区

重点実施区域

事例のポイント

- ほ場整備事業と並行して農地中間管理事業を活用し、地区内の法人・担い手に農地の集約を図った。

地区概要・特徴

- 上新田下前地区は、上新田の西側で最上川の堤防に隣接する地区である。
- これまでは小さく不規則な田んぼばかりで作業効率の悪い地区であった。また、排水対策も難しかったことからなかなか良いものが作りにくい状況にあった。

取組み経過・支援等

- 基盤整備事業（H23～H27）により効率の良い農地整備を実現するとともに、農地中間管理機構を通し担い手への農地集積を図った。
- 集積するにあたっては、作物ごとの配分計画を検討するなど、高効率な作業を行えるように話合いを重ねた。
- 地権者からの同意を得るにあたっては、地域集積協力金を活用した。

成果

- 担い手への農地の集約化
- 地域集積協力金の活用
 - ・機械購入（野菜移植機）
 - ・組合の維持管理費へ充当
 - ・農地の出し手へ配分

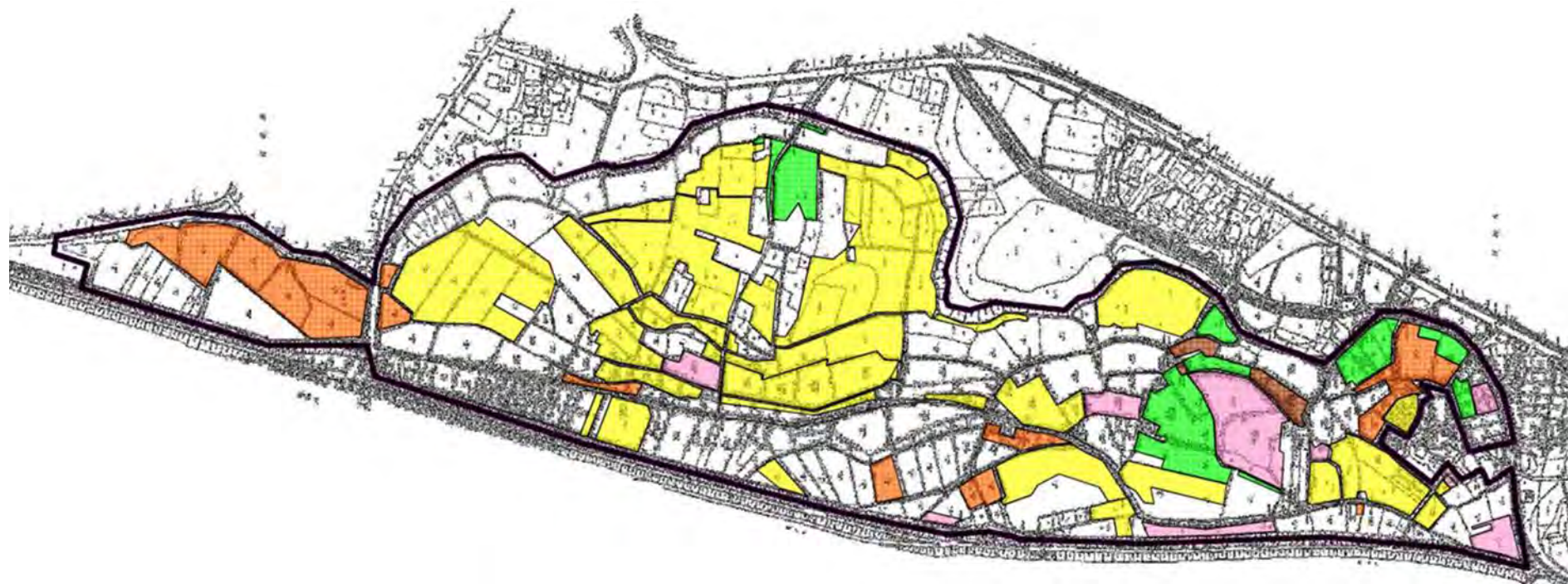


作付状況

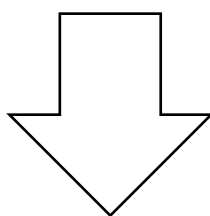


収穫状況

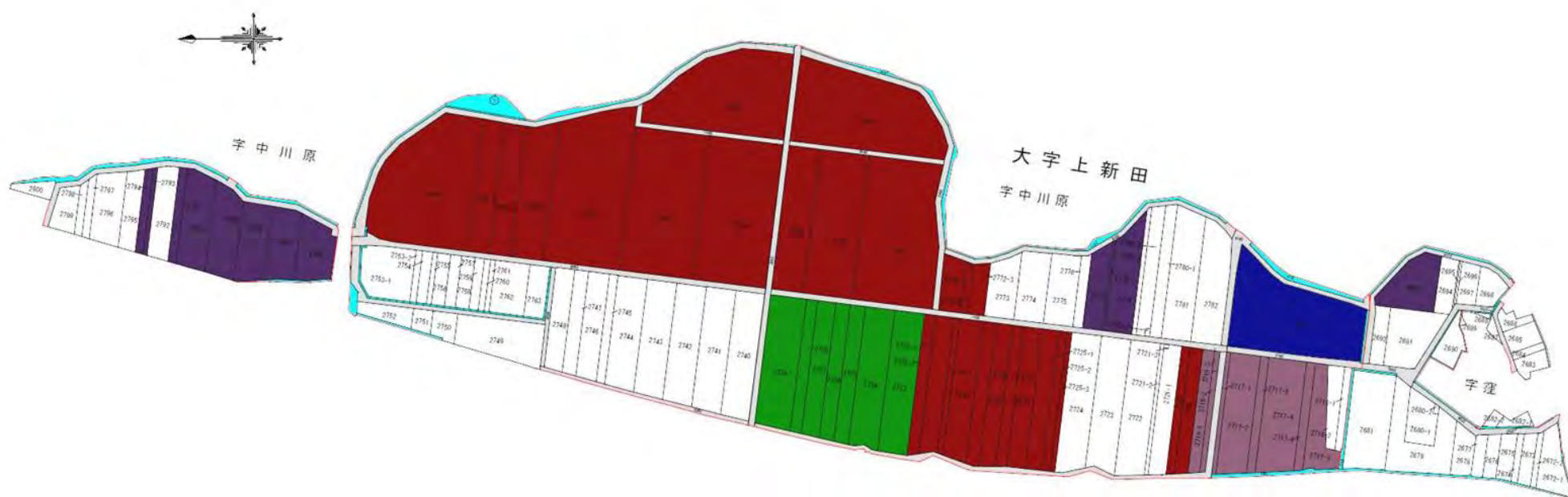
事業導入前



色分け：担い手が利用する農地（5経営体）
黒線：地区エリアの外線



事業導入後



色分け：担い手が利用する農地（5経営体）
茶色：新田営農組合

項目	地域面積①	担い手面積②	うち機構借受面積	担い手数	集積率②/①	主な担い手
事業導入前	30.97ha	15.29ha		5経営体	49.3%	新田営農組合
事業導入後		19.15ha	18.74ha	5経営体	61.8%	